



創立 1995 年 10 月 18 日

親睦と奉仕そして前進

編集・発行：情報委員会

2012～13年度テーマ

－クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう－

第210会例会

日時：平成 25 年 4 月 11 日(木) 11:30～14:00

場 所：八王子エルシィ

出席者：68 名 出席率 93.2%

(会員総数 73 名、休会 0 名)

1.開会 飯田富美子例会委員長の司会で開会



定時に例会が始まり、資料の確認が行われた。

2.挨拶 吉田 信夫会長



本日、新会員をお迎えすることになりました。クラブの会員構成が豊かになるものと期待しております。

最近他のプロバスクラブの方から、当クラブに関心がある八王子在住の方を紹介いただき、橋本会員委員長に面会していただきました。その方は商社マンで海外勤務が長く英語が堪能なので、外国人を対象としたボランティアをしたいとの希望でした。当クラブにはそのような活動計画はなく、本人の希望がみだせず、入会の話は取りやめになりました。クラブの活動についてはいろんな期待のされ方があるものです。これからも柔軟な考えで会の運営をすすめていく必要があると感じた次第です。

現在、ホームページの更新と平成 24 年度宇宙の学校レポートの取りまとめを馬場征彦会員が

担当され、その作業が最終段階に入ってきました。表に出ないところで大変努力されておられますので、一言触れさせてもらいました。

今日はこの例会の後、生涯学習サロンの第 3 週が開催されます。サロンの運営もスムーズに進んでいますが、サロン会員の方に対して細心の心配りをしながら、サロンを楽しみたいものと思いません。

3. 新入会員紹介



立川富美代会員から会員番号 132 伊藤涼子会員の紹介がありました。伊藤会員は 30 年余の教職（音楽）を経て、現在は八王子センター元気の代表をされています。同会員から入会の挨拶がありました。新会員を迎えて会員総数は 73 名（内女性会員 15 名）となりました。

4. ハッピーコイン披露・バースデーカード贈呈

先ず、吉田会長より 19 件のハッピーコイン（後掲）の披露がありました。次に、池田会員手作り



4 月生まれの方々

のバースデーカードが、4月生まれの4名（敬称略）、内山雅之、熊田真瑜美、佐々木研吾、塩澤廸夫の各会員に吉田会長から手渡されました。同じく4月生まれの池田ときえ会員には、全会員のバースデーカードを1年間作って頂いたお礼として、高取和郎会員の作陶による茶道具の水差しが吉田会長から贈られました。

5.卓話

アイヌの文化について

山崎 修司



1. 小中時代の思い出

厚真町（当時は村で、人口約1万人強、現在は、町で5千人）に純粋なアイヌは2,3軒あり、吉村さんがハビュウ（厚真の当時の一部落）に住んでいて、熊をナイフで（小刀で）仕留めたと聞かされた記憶がある。

更に小さい3,4歳頃、姉兄は日高支庁沙流郡平取町紫雲古津で小学校に通っていた頃アイヌに悪口を言い、追いかけられたと聞かされた。

厚真町には、2,3世のアイヌ人は何人かいた。青年団の運動会で黒いタイツ姿で女子青年が走っていた。非常に速かった記憶がある。2,3世で毛深く、すぐ判別できた。

2. アイヌ

アイヌとはアイヌ語で人間を意味し、アイヌ民族は、自然の様々な現象に、夫々神が存在するという思想をもっている。（いた。）〈動物、植物、道具、家、山、湖等々〉

古くから、北海道、樺太、千島列島を生活の本拠地にしてきた民族で、彼らは、主に狩猟、漁労、採集によって自然と共生し、固有の言語、文化、生活慣習などを持ち、それぞれ子孫に受け継がれ現在に至る。

かつては北日本の広大な範囲に居住していた。

北海道は言うに及ばず、東北地方にも住んでいて、東北の各地にアイヌ語の地名が残っている。

アイヌ民族がいつ頃から居住するようになったかは、諸説があり、確かでない。

古事記、日本書紀にもアイヌ民族の記述がある。ただし、両書に出ている蝦夷はアイヌ民族とは断定できない。

アイヌ民族は文字を持たない民族で、日常生活は、アイヌ語が使用された。従って口頭文化が発展した。

明治以降の同化政策により、アイヌ語は次第に使用されなくなり、口頭文化に触れる機会も次第になくなった。

現在は、伝統文化を継承する為、アイヌ講座や、アイヌ文化を学ぶ講座が開催されている。（特に北海道大学に講座あり、研究者も居る）

* アイヌ民族は2万4千人（1970年の調査）、大部分は胆振、日高、十勝、釧路支庁に住む（1979年の調査）。人種的、民族的、言語的系統について定説は無い。

* 1988年東京に2700人のアイヌがいた。

3. 渡来

様々な説がある。

1) 古代、数万年前、南からやってきた“モンゴロイド”で琉球から日本列島、樺太（サハリン）千島列島、に定住。縄文時代の文化を育んだ。

北海道に縄文時代の文化があった。現在発掘作業が行われている。

2) 弥生の頃北方“モンゴロイド”が朝鮮半島を経て日本にやって来て、弥生の古墳文化を広めた“日本人”との説。

*モンゴロイド：一般的には黄色人種もしくはモンゴル人種。形態的特徴による人種の3大区分の一つで、黄色から黄褐色の皮膚、黒い直毛の毛髪が一般的で、小児斑が見られる。日本人、中国人など北部モンゴロイドの他インドネシア、マレー人種、アメリカの先住民を含む。

特徴としては、ずんぐりした体格、短い四肢、顔に髭がない。世界の住民の3分の1を占める。

他には

*コウカソイド＝白色人種

*ニグロイド＝黒色人種

註 アイヌ民族は、コウカソイド説もある。

4. アイヌの蜂起

アイヌ民族が蜂起した大きな戦いは2回ある。

一つは、1457年（応仁の乱の10年前）のコシヤマインの戦いである。

和人の鍛冶屋と客のアイヌの少年の口論がきっかけ。少年が小刀を発注して、品質と価格で口論になりその小刀で刺殺した。渡島半島の東部の首領であるコシヤマインを中心とするアイヌが蜂起した。最後は和人が平定した。一時は、和人の拠点である道南12館の10館まで落としたが、1458年武田信広によりコシヤマイン父子が弓で射殺された。

この戦いを契機に松前藩が形成された。但しこの事件の背景には、北奥羽の南部氏と安東氏の抗争があった。

1519年にシャコジ兄弟の戦いがあったが割愛する

5. アイヌ民族との交易

農耕民族の和人と狩猟民族のアイヌは、それぞれの生活様式により確保した生産物を交易で交換した。アイヌは魚や毛皮を輸出品目とし和人は生活する道具（鉄器や漆器）や嗜好品（米、茶、酒）と交換した。

交換条件は、和人が有利であったと思われる。魚を数えるのに、最初に1匹を入れてから、1匹2匹と数え、最後におまけともう1匹入れた。

また、毛皮など枚数が少ないと大幅な値引きをしたようだ。

6. アイヌ民族で特筆すべき人

萱野茂（1926～2006）：日本アイヌ文化の研究者、著書は多数あり。参議院議員1期（1994～1998）、日本に大和民族以外の民族がいることを知って欲しいと、アイヌ語で質問した。（アイヌ語と日本語は母親に）

平取町に二風谷アイヌ資料館を創設 現在息子の萱野が館長。

世界先住民族ネットワークのアイヌ代表。

- * 北大文学部 言語学科の講師
- * 吉川英治の文化賞
- * 北海道文化賞
- * 政界引退時に残した言葉

「人（狩猟民族）は足元が暗くなる前に故郷に帰るものだ」

7. おわりに

1899年（明治32年）「北海道旧土人保護法」でアイヌ民族を保護する法律が制定され、日本文化を強要する同化政策の実施で、自らの文化が否定され、アイヌ民族は誇りと自信を失う。1997年に「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が制定された。ただこの法律では、アイヌ民族が求めている権利の回復は取り上げられなかった。激しい差別と偏見の中で生きてきた人々の苦勞に報いる物ではなかった。

今春からの高校教科書に北海道関連では日本史A、Bにアイヌ民族が取り上げられた。

アイヌの差別は現在も存在する。平成11年の北海道の生活実態調査報告書によると、「差別を受けたことがある」が12.4%、「自分はないが他人が受けたのを知っている」15.7%。「受けたことが無い」48.4%との調査報告がある。非常に残念である。（以上）

6. 幹事報告 塩澤 勉夫幹事

4月の理事会の状況を簡単に紹介します。

- ・新入会員の推薦方法：今後の検討事項へ。
- ・サロンのアンケートを実施する。
- ・当クラブのプロジェクトの管理方法を議論。
- ・サロンの閉講式の内容を決定。

今期も残りは3ヶ月、よろしくお願いします。

7. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田富美子委員長

- ・会員総数73名、出席者68名、出席率93.2%

(2) 情報委員会 寺田 昌章委員長

- ・「プロバスだより」209号をご覧ください。投稿は内山雅之会員「シルクロードの一部を旅して」、増田由明会員「敦賀の風景」の2編です。
- ・「プロバスだより」への投稿がかなり集まりました。ありがとうございました。
- ・新会員の顔写真撮影を5月例会で行います。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

- ・伊藤涼子会員の加入で会員数は73名、女性会員は15名（20.5%）になりました。期首の会

員数は71名で、今期は現在まで新入会員が3名、逝去会員1名です。

(4) 研修委員会 土井 俊雄委員長

・昨年8月から始めた今期の卓話は、本日の資料にある通り今月で計8回となりました。卓話の話し手各位に御礼申し上げます。

(5) 地域奉仕委員会 橋本 鋼二委員長

・野外サロン(4月25日)当日の注意事項・お願い事項について(バスの座席は特にサロン会員へ配慮すること、服装・履物の注意、等)。詳細は略(本号発行時には終了しているため)。
・特にサロン会員の方について、閉講式とさよならパーティーへの参加確認をお願いします。

(6) 交流担当 浅川 文夫 交流担当理事

・近隣クラブとの交流:5月3日開催の囲碁同好会春季大会には、多摩プロバスクラブから3名が参加予定です。ゴルフ同好会では5月23日に多摩及び日野プロバスクラブとの交流コンペを行います。

8. 「宇宙の学校」報告 下山 邦夫 運営本部長

今年度計画は作成中のため、一部を紹介します。

1) 5月14日(火)午前10時に八王子「宇宙の学校」実行委員会を開催します。元会長の皆様・監査の方・他の実行委員の皆様 に案内しますのでご承知おきください。

2) 実行計画は未定ですが、概略次の通りです。本部会場として教育センターと同じ構内の体育館分館(昨年度熱気球を実施)を3日確保しており、会場拡大に伴い募集人員を増やすことを考えています。もう一つは昨年の都立桑志高校に代わって都立八王子北高校が協力頂けることになりました。こちらは地域学校間連携の小学校から募集し、ややこじんまりした「宇宙の学校」になると思います。二つを併せると昨年度より募集人員を増やす方向です。詳細は確定後報告します。

「宇宙の学校」を紹介すると必ず感心されて良いことだと歓迎されます。子どもとその親と地域ぐるみの新しい子ども育成プログラムとして「宇宙の学校」が持っているポテンシャルを、更に活用し広げて行かねばならないと思います。これが出来るのはプロバスクラブのお蔭であり、やはり

素晴らしいクラブだと感慨を強くしています。

今年度も皆様のサポートを是非よろしく願います。

9. 同好会報告

- ・**ゴルフ同好会**; 交流担当から報告がありました通り、5月23日に多摩及び日野プロバスクラブとの交流コンペを行います。(米林伸恭会員)
- ・**歴史の会**; 暫くぶりに6月開催準備中です。5月例会にはご案内いたします。(土井俊雄会員)
- ・**囲碁同好会**; 交流担当から報告がありました通り、5月3日(金)に台町市民会館で春季大会を行います。多摩プロバスクラブからも3名参加されます。皆様の参加をお待ちします。(下山邦夫会員)

10. その他

・塩澤 勉 夫 幹事

健康フェスタが5月19日(日)に開催されますがその準備会合が近日あり、川村副幹事が出席します。ここで、本年の国体において八王子で開催される9種目の炬火式についても明確になるので、5月の例会でお知らせします。

・東山 榮 会員

情報委員会で原稿募集を担当しています。今年のはじめに原稿の在庫が少なくなり、心当たりの方に急遽お願いしたところ快く引き受けてくださり、多くの投稿を頂きました。ありがとうございました。

11. プロバスソング斉唱

12. 閉会の挨拶 荒 正勝 副会長



以下の話を紹介して、閉会の挨拶とします。

宇宙飛行士の毛利衛さんの「宇宙からの贈りもの」(岩波新書)に「宇宙から見えた国境」として、メキシコとグアテマラを北と南に直線で区切る国境がはっきりと判る写真が掲載されていました。

私は数年前、マヤの遺跡を訪ねる旅で、メキシコとグアテマラを東西に分ける、蛇行して流れる、川幅百メートルぐらいのウスマンシタ川をボートで渡ってグアテマラへ入国しました。

ハッピーコイン

◆この3月31日をもって、12年勤めた夕やけふれあいの里を退職。丁度私の誕生日の日です。

荻島 靖久

◆おかげ様で煎茶の茶会を開くことが出来ました。茶の会から10年、プロバス茶の会の皆様に感謝いたします。

阿部 治子

◆84歳、88歳、92歳と私。四人姉妹で食事会をしました。全員元気で楽しい一時を過ごし、またの会う日を約束しました。

大串 延子

◆上の孫が薬科大学へ、二番目が中学校へと進学し、元気に通っています。

高取 和郎

◆我が家の孫、一人は大学へ、もう一人は中学(中高一貫校)へ入学。誠に目出たいことだ。

濱野 幸雄

◆サロンの話し手の任を終え、「宇宙の学校」レポートを脱稿し、更に孫が小学校入学。この4月は、嬉しさ続きでした。

馬場 征彦

◆朝9時で35度、日中43度のミャンマーより無事帰国。来週はミサイル最前線のソウルへ行きます。

野口 浩平

◆最後の孫が高校(志望)入学。

山崎 修司

◆戦争中、軍国少年の私は、20歳までの寿命と思っていました。戦争が終わり、その2倍くらいは生きたいと思いましたが、さらにその2倍を超え、81歳まで生き延びました。あと何枚池田さんのカードを頂けるでしょうか。

佐々木研吾

◆今日は久々に新しい女性会員をお迎えし、ハッピー、ハッピーです。今後ともよろしくお願ひします。

飯田富美子

◆孫娘が大学卒業し、東京都の中学校教師に採用され4月1日から勤務しています。

竹内 賢治

◆来週末に50回目の結婚記念日を迎えます。よく続いています。

岡部 洽

◆孫娘が希望の桐朋女子に入学。ハッピー。

塩澤 迪夫

◆4月1日エイプリルフール。一才年を元気に重ねました。ハッピーです。

塩澤 迪夫

◆3日に77歳の誕生日を迎えました。

内山 雅之

◆佳人薄明というけれど、無事古稀を迎えました。

バースデーカード製作命でなお長生きしたいと願っています。

池田ときえ

◆3月7日胃の手術、3月20日無事退院。皆様に感謝いたします。

宮崎 浩平

◆若い伊藤涼子さんを紹介いたします。平均年齢引下げに貢献！！

立川富美代

◆昨年春ジョギングで脚を故障した。そのリハビリでウォーキングの面白味を知った。これからは両刀使いが出来るなあ。

吉田 信夫

投稿

一期一会

大高 秀夫



3月10日は私にとって忘れられない日となった。3月10日と云えば68年前、東京大空襲の真紅の夜空も忘れられないが、これは今年の事である。この日を最後に25年間続けてきた合唱活動に終止符を打つことにした。

現役時代は母子家庭と云われるくらいで、近所にお住まいの方も良く判らないほど、地域社会との接点がなかった。このままの状態定年を迎えた自分を想像してみた時、これではいけない今からでも遅くない。何か地域社会と触れ合える対策を考えなければと…。

若い頃コーラスグループに入っていたこともあり、歌うことも好きなので合唱をやってみようと思った。そんな時八王子フィルハーモニー管弦楽団が「歌の輪コンサート」を企画し、合唱のメンバーを募集していることを知り、石井光団長のお世話になって参加させて頂いた。演奏が終わってお客様より拍手を頂いた時の感動が忘れられず病み付きとなってしまった。その後「市民の第九」に参加し、その時知り合った7人を集めて男性コーラス「プレアデス」を結成して楽しんでいった。

平成4年八王子フィル管弦楽団が東京電力(株)多摩支店の後援を得て、「TEPCOの第九」演奏会を開催することになり、石井団長より合唱団を作るので手伝って欲しいと誘っていただいた。

その発足準備会で紹介されたのが立川さんだった。翌日から立川団長のもと私が事務局を担当することになり、「プレアデス」のメンバー（武田さん・松尾さん等）が主体となって八王子フィルハーモニー合唱団がスタートすることになった。

以来 20 年立川団長の指示に従って団の運営活動をしてきたが、その間に立川さんに色々なところに連れて行かれ、(株) ムラウチファーニチャーの村内会長・黒須前市長・萩生田衆議院議員はじめ、市内の沢山の著名な方々に親しくお話をさせて頂く機会を頂いた。又平成 8 年にはプロバスケットボールに入会を勧められ、大勢の仲間との出会いがあり、私の定年後の生活は想像もしていなかった何とも言えない素晴らしい人生が待っていてくれたのだ。

25 年前コーラスを始めたことで石井団長に出会い、そして立川さんと共に合唱団を育てて来た 20 年間の充実した日々を過ごさせて頂いたことは、偏にこのお二人に出会えたお蔭だと心から感謝している。真にありがとうございました。

歌っているときは楽しいので何時までも続けたいのだが、事務局の仕事も寄る年波には逆らえず日に日に重くなってきて、そろそろ潮時かなと思ったが、折角ここまで来たのだから創立 20 周年まではと頑張ってきた。昨年 10 月に待望の 20 周年記念演奏会「メサイア」も無事に終わったが、八王子芸術文化ふれあい財団より「八王子音楽祭」参加の要請を受け、3 月 9～10 日いちょうホールでの演奏会を私の最後のステージとして幕を下ろす事にさせて頂いた。

この 20 年間に 400 人以上の団員が出入りし、その方々ともそれなりの出会いがあっただけで楽しかったが、現在 75 名の団員のうち 25 名が創立当時のメンバーであることが素晴らしいし、何より自慢できることだと思う。この団員の皆様に支えられ大過なく幕を閉じることが出来る私は本当に幸せ者だ。

ここで歌う楽しみは終わったとしても、今迄に出合った方々に心より感謝しその絆を大切にしていきたいと思っている。

もう一つ私にとって忘れられない出会いがあ

る。13 年前の事、あるペットショップで目線が合ってしまった、連れて帰ってきた愛犬のノエルとの出会いである。「プロバスだより」112 号で「私の宝物」として書いたようにノエルに癒され続けてきた毎日だ。この夏には傘寿を迎える私にとって最大の問題は宝物のノエルを看取るまでは何としても頑張らなくてはと深刻に考えている今日この頃である。

幸せは健康づくりから

根本 照代



今年の 3 月 20 日は、国連が制定した初めての「国際幸福デー」となることを 3 月 8 日の新聞記事で知った。

世界中で「幸福について」改めて考える機会となることは大変良いことと思う。

「幸せ」とは何？あなたにとって幸せを感じるのとはどんな時？ その人にとって幸せの感じ方は違うし、その時の置かれた状況によって答えが変わると思う。しかし何といても心と身体が健全でなければ「幸せ」を感じとることはできない。健康な身体があっただけでこそ夢も持てるしそのための行動もできる。私が医療・介護の世界に 50 年余過ごした中で常々思っていたことである。

そこで「健康な生活を送るために」私が考えていることを述べさせていただく。

＜健康な身体づくりのために＞

まず大切なことは第 1 に食事。栄養のバランスを考えて。蛋白質は肉より魚から摂る方が良い。なるべく規則的に。薬に頼らず食物から栄養を摂る。便秘予防に繊維質の多い野菜を多く摂る。市販の胃腸薬も加齢や運動不足で弱った機能を補助してくれる。就寝前にコップ 1 杯の水を飲む。就寝中に血液が濃くなり脳梗塞など起こしやすくなることの予防のためである。第 2 に睡眠を適切に。時間の長さより質。昼間適度に疲れると熟睡できる。第 3 に運動をする。ラジオ体操、散歩、水泳、ダンス、コーラス、山登りその他いろいろあるが誰か仲間と一緒に計画するとサボらないで続く。「あし」は第二の心臓と聞く。歩くこと

によって下肢の筋肉の収縮により血液が心臓に帰るのを助けることになると言う。肥満・高血圧・糖尿病・高コレステロール症などの生活習慣病は運動の必要性を言う。第4に健康診断を定期的に。人間ドックまたは市の検診を受ける。かかり付け医を決め遠慮なくなんでも相談する。歯科受診も。なんでも早めの手当が良い。

<幸せを感じる心を育てる>

そのために私は、楽しいことをいっぱい考え、行動することになっている。2人に1人は「がん」に罹り、3人に1人は「がん」で死ぬと言われている。このがん細胞と戦う免疫細胞を増やすことが課題である。笑顔のある生活が免疫力を高めてくれる。自分の趣味（美しいものを見たり、聴いたり、作ったり）を持ち仲間と交流し、適度に外出する。外出することにより、おしゃれに気を遣い美しくなろうとすることが大切。好奇心を持って歩けばまた新しい発見もある。少くも膝や足が痛くても歩かなければ筋力は確実に衰える。年齢を重ねるとどこか不具合が出てきて体力に自信がなくなる。しかし病気にくよくよとらわれず夢中になれるものを持つと良い。生命力のあるものと接する（園芸・ペット・孫や若者との交流他）と元気をもらえる。

<残された人生あと何年？>

寿命は個人差があるので今の年齢から一律に数えることはできないが平均寿命を一応の目標にして私はある程度の計画を持ちたいと思っている。そうでないと時間がどんどん過ぎてしまいやりたかったことができないでストレスになってしまう。趣味の数も整理をして中身を充実させたい。家族との生活も大事。自分ひとり楽しんでばかりはいられない。限られた時間を一番身近な家族とその周囲のひと、地域とのつながりを大切にして「幸せ」を見つけながら生きて行きたい。

桃の里と国際交流のこと

田中 信昭

岡山は白桃の名産地である。この季節、里山一面が桃の花でピンクに染まる。「桃の里」という地名もあるほど桃作りが盛んで、その実は大



きくうっすらとピンクがかった白い肌が白桃と呼ばれる所以である。馥郁たる香りは譬えようもない。阪神淡路大震災（1995年）の年までの26年間、私は倉敷に住んでいたが、桃の花が咲く頃になると浮かんでくる懐かしい思い出がある。

土地の人達が、「美観地区」と呼んでいる一角に昔ながらの造り酒屋があり、味わい深い銘酒には「荒走り」と名付けられたものもあった。毎年ひと冬の酒造りが終わった頃、その酒蔵の二階の板の間に座布団を並べて、俄かコンサートが開かれた。称して「くらくら座」、構成は全くユニークで、琴とフルートのデュエットがあるかと思えば、津軽三味線の名手と呼んだり、終わったら演奏者を交えて皆で今年の新酒で酒盛り。

もう一つは、倉敷を訪れる外国人を短時間自宅に招いて談話を楽しむ「国際交流」のこと。当時からこの季節に倉敷を訪れ宿泊する外国人観光客が結構いた。そのうち、日本の一般家庭の雰囲気味わってみたいと希望する人達を、夕食後ボランティアが手分けして夫々に自宅に招待して2,3時間談話するというもの。我が家も子供たちがまだ小学生の頃だったと思うが、結構片言でコミュニケーションしていた。習いたてのピアノを聴かせたり、私が日本の風習を説明したりしていると時間はあっという間に過ぎて、帰国後の手紙の交流も暖かいものであった。メールなど無い古き時代の懐かしい思い出の一つである。今ここ八王子には高尾山を中心に大勢の外国人観光客が訪れているが、そのうちどのぐらいの人達が八王子に宿泊するのか知らない。もし倉敷でかつて経験したような環境が整うなら格好のボランティア活動だと思うが、果たしてどんなものだろうか。或いは既に実施されているのかもしれない。

毎年シーズンに白桃農家の友人からプレゼントが届く。楽しみにしているが、一箱に7個しか入っていない。それでも買うと一万円ぐらいする。香りを楽しみ、3,4日我慢をして食べごろに熟した所を、おもむろに取り出し、先ず赤道沿いに一周ナイフを入れる。北半球を右手で上から押さえ南半球を左手で支えて、おもむろに左右に捻ると熟した実から皮がズルッと剥ける。こんな桃の食べ方したくありませんか。

地域に育てられて

宮城 安子



元気で健康な日々を過ごせることを、プロバスクラブの皆さんと共に感じられることが何より嬉しい事です。

私は今、30数年前に「トリム健康体操」と出会い、体の手入れとしての体操で健康作りに励む日々であります。

子供が小学生になった頃、町内の子供会へ入会し、数年後育成会の役が回ってきた。どこにでもある当然事なのに、大変重荷に感じ緊張して会合に出たことを思い出します。ある役に当たってしまったのです。“さあ どうしよう”皆で相談しながら進めていくのだから、難しい事ではないが、当然家を空けることが多くなった。そのことは、少し不安もあり大変であったが、子供たちの明るさ、たくましさ、元気さに圧倒されながら共に活動が始まった。

研修は基本的なことから、専門的分野(歌・ゲーム・野外活動一般)へと進み、勉強会を通して仲間が出来、学ぶ楽しさを感じ始めたのです。「子供による、子供のための、子供会作り」に力を入れ、夢が膨らむ20年の活動であった。

その頃、教育委員会の委嘱を受け、青少年委員として18年間青少年の健全育成事業に関わる。夏に実施された「親子ふれあいキャンプ」は、小学生と父子・母子が対象で、車山・白樺湖等をグレンデとして、野外活動(市の施設である姫木平で2泊3日)を行い、自然とのふれあい・自然の雄大さ・きびしさ・優しさにふれた事が、子供たちの心に火をつけた。又青年に対しては「青年の船」アドバイザーとして20年間に10回参画した。八王子市と苫小牧市は姉妹都市(千人隊の墓が勇払にある為)であり、青年交流(訪問・受け入れ)が実施されていた。

思い起こせば大変苦勞もあつたが、とても大きな経験をさせて頂き、多くの人との出会い・ふれあい・互いに高め合ったことは大きな財産になった。こうした経験が今現在、心豊かに過ごすこと

が出来る礎になっているように思う。

常に仲間作りを心がけて活動してきたことに感謝！正に地域に育てて頂いたのです。今度はお返しを！ささやかなレク財を持って、ボランティアに走り回る日々もまた楽し。

「ありがとう たった五文字の あたたかさ」中学生の書いた標語です。

俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～4月の句会から

山は芽吹きで燃えています。兼題は「桜」。個人的な句が勢揃い。桜に負けず満開の句会。

惜別の友を見送る春寒し 石田 文彦

春は旅立ちの季節。そこには沢山の別れがある。その心情が伝わってくる。

若草に転がる子らや犬ジャンプ 田中 信昭

若草の原で子供たちが嬉嬉として遊んでいる光景。「犬ジャンプ」に躍動感がたっぷり。

夜桜を見上げし空の妖気かな 飯田富美子

夜桜には何か怪しの翳がある。作者は夜桜に妖気のみたという。心象俳句として秀。

ベア期待上野の花見客満開 東山 榮

経済の動きを先取りした期待感が込められている。「客満開」は俳諧的でユーモラスな表現。

母呼びて知覧の彼方桜散る 阿部 治子

何とも言いようのない想いが込み上げてくる。母の名を呼びつつ特攻に散った若者の無念。

くぎ煮便瀬戸内の春包み来る 馬場 征彦

「くぎ煮」とは「いかなごの佃煮」。ふる里の春の味が届いた。季節感あふれる佳句。

激論す春闘の日の懐かしき 渋谷 文雄

高度経済成長期の象徴「春闘」。その只中に身を置いた企業戦士の思い出。「激論す」に臨場感。

山桜溪の深きへ散り急ぐ 河合 和郎

とめどなく散り急ぐ桜。色々な想いが走馬灯のように浮ぶ。そんな想いを散る花に託して。

編集後記：アベノミクスによる好景気の子感からか、街も若干明るくなった気がします。これが長く続いて欲しいものです。 馬場 征彦